

令和 6 年度第 1 回総合教育会議 会議録

1. 日時	令和 7 年 2 月 12 日（水） （午後 3 時 10 分から）
1. 場所	市来庁舎 2 階庁議室
1. 出席者	中屋謙治市長 相良一洋教育長 國料修兵委員・福山希委員・橋口美代子委員・若松友子委員 吉永教育総務課長・山崎企画政策課長 書記 橋元教育総務課長補佐
1. 協議事項	・教育大綱（案）について ・令和 7 年度当初予算の要点について
事務局	只今から令和 6 年度第 1 回総合教育会議を開催します。 まずはじめに、中屋市長のご挨拶申し上げます。
中屋市長	皆さん、こんにちは。 教育委員の皆様には、日頃から本市の教育行政にご尽力いただきまして、心からお礼申し上げます。 中学校においては、令和 8 年 4 月の学校再編を控え、学校や P T A、地域の方々に一生懸命に協議していただいていると聞いております。大変ご苦勞をおかけしているなと思うことでございます。 そのような中で、市としましては、令和 7 年度の当初予算に串木野中学校の教室であったりトイレであったり、あるいは空調であったり、このような所の施設整備、加えてスクールバスを運行しなければなりませんので、スクールバスの停留所等の整備費、およそ 3 億円と見積りして当初予算の計上しようと、このような段取りをしているところでございます。 さらに、「英語のまち」の推進にあたっては、A L T を現在 4 名お願いしております。それから、新年度、「英語かるた作成事業」に取り組んだらどうか、また、今年度から実施しているマンツーマンオンライン英会話事業など、英語のまち推進事業関係で約 1,100 万円の予算を計上しているところでございます。 さらに、不登校に関しては、子供の数は減ってきておりますが不登校の子供の数は増えてきているということで、これをなんとかしなければいけないなと、加えて、対象年齢が低年齢化している、こういう

	実態もあるようでございます。そういうことで、心の教育相談員をさらに1名増員し、串木野小学校に新たに校内支援教室を設置したらどうかと計画しております。 これらを含めた令和7年度予算案の教育費の合計額は、前年度と比べて約6千4百万円の増額で計上しているところであり、来週の20日から始まります議会で審議していただく段取りでございます。 本日の総合教育会議における協議・報告事項は、「教育大綱（案）について」と「令和7年度当初予算の要点について」の2件であります。 今回決定していただく教育大綱は、令和7年度から令和11年度までの5年間における本市の教育行政の基本目標や施策の方向性、こういったものを定める大変大事なものでございます。 本市の総合計画、それから教育振興基本計画を作成中と聞いておりますが、これらを踏まえ、地域の実情に合わせた教育大綱にしたいと思っております。 また、施政方針につきましては、20日開会の市議会本会議で述べることにしておりますが、一足早く、報道関係の方への記者発表というのが今週金曜日の14日でございます。14日に発表することといたしております。 いずれにしましても、本市の教育行政の基本となる大事な案件でございます。委員の皆さんの忌憚のないご意見、積極的なご意見をいただいて、実のあるものにしたいと思っております。 どうぞよろしくお願いいたします。
事務局	それでは協議と報告に入ります。 ここからの進行は、市長にお願いいたします。
中屋市長	会次第3番目、教育大綱を議題とします。 説明をお願いします。
吉永課長	いちき串木野市教育大綱（案）をご覧ください。 教育大綱（案）を見ながら、以下について説明 1. 大綱の位置付け 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、地方公共団体の長は、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を定めるものであること、大綱を定め、又はこれを変更するときは、総合教育会議において協議するものであること。 2. 対象期間 令和7年度から令和11年度までの5年間とする

中屋市長	3. 基本理念 「認め」「支え」「学び」とともに未来を創る人づくり 基本目標（目指す姿） 1 多様な人々を認め、協働して支え合い、自ら学び、考え、行動する力を備えた児童生徒 2 伝統と文化を尊重し、互いの人格を認め、支え合い、生涯にわたって様々な活動や学習に取り組み、自己実現を目指す市民 4. 教育の取組における視点 (1) 時代を超えて変わらない価値のあるものの尊重 (2) 社会の変化を乗り越え、未来の社会の創り手となる資質・能力の育成 (3) 生涯を通じて一人一人が幸せや生きがいを感じることでできる教育環境づくり (4) 学校・家庭・地域・企業・大学等の積極的な連携・協働 (5) 郷土の教育的な伝統や風土の活用と未来への継承 (6) 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進 5. 教育施策の方向性 - I お互いの人格を尊重し、豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 - II 未来の社会の創り手となる資質・能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進 - III 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進 - IV 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進 - V 生涯を通して学び活躍できる環境づくりとスポーツ・文化の振興 なお、具体的な施策の詳細については、現在、教育委員会で作成中である「第4期いちき串木野市教育振興基本計画」の中で定めることとしております。 以上で説明を終わります。 説明が終わりました。 項目だけですので、なかなか取りかかりが難しいかもしれませんが、これまでの教育大綱とはガラッと変わりましたが、教育理念の中の「認める」「支える」「学ぶ」、この3つをキーワードとして、未来を創る人づくりということで、基本目標にありますように、多様な人・多様な考え方を「認める」、それから協調性を含めて「支える」、そして自ら学んでいく、子供だけではなくて、大人も含めて生涯学習を含めての「学ぶ」、この3つのキーワードを入れた形で取り組んでいく。
-------------	---

中屋市長	今回、新たな基本理念と基本目標ということであります。 教育委員の皆さんから、何かご意見等ありませんか。 先ほど教育総務課長からありましたが、作成中の教育振興基本計画では、教育の取組における視点や教育施策の方向性の下に、より具体的なものが出てくるということであります。 このような考え方で教育大綱を定める、ということによろしいでしょうか。
教育委員	(異議なし)
中屋市長	それでは、令和 7 年度から 5 年間の教育大綱、基本理念の「認め」「支え」「学び」をキーワードに取り組んでいくということでご理解いただきたいと思います。
中屋市長	次に会次第 4 番目の報告、令和 7 年度当初予算の要点について、説明をお願いします。
山崎課長	令和 7 年度当初予算の方針、考え方、概要について、資料に基づき説明いたします。資料をご覧ください。 令和 7 年度当初予算の資料を見ながら主な事業等について説明 ○令和 7 年度一般会計当初予算は 188 億 8,300 万円で、過去最高額の予算であり、増額の主な要因としては、長崎鼻公園再整備事業や学校再編に係る串木野中学校施設改修事業などであること ○予算の特徴としては、子育て世代の経済的負担の軽減及びまちの魅力づくりに重点化しており、人口減少・少子化対策として、子育て（負担軽減）、子育て（環境整備）、移住定住促進に取り組むこと ○人口減少・少子化対策の子育て（負担軽減）については、学校給食費、子ども医療費、0～2 歳児の保育料の、3 つの無償化に取り組むこと その中でも、新しい事業として私立学校や特別支援学校等に就学している児童生徒に対し、学校給食費相当額を支援する補助金を拡充したこと 「子ども医療費の無償化」については、昨年の 10 月診療分から助成対象を課税世帯の 18 歳までに拡充したこと

	「0～2 歳児の保育料無償化」については、令和 5 年度から取り組んでいること ○子育て環境の整備として、令和 7～8 年度の 2 か年で実施する「長崎鼻公園再整備事業」により、天候に左右されない遊戯施設を整備し、子育て世代をはじめとする幅広い世代が安心して集い、賑わいを創出する公園整備を行うこと ○市内に小児科の病院が無くなってしまった中で、子育て環境整備として、令和 7 年度からスマートフォンでできる利用できる「医療相談オンラインサービス導入事業」を実施する予定であること ○移住定住促進対策では、「Web プロモーション推進事業」により、若者や子育て世代をターゲットにした移住定住 Web サイトの運営を行うことで、情報発信を行うこと 定住相談員の 1 名配置、お試し体験住宅の設置、パンフレットや新聞広告、ウェブ広告などにより定住促進を図ること 定住補助金を継続すること ○人を惹きつける魅力あるまちづくりとして、特に若い世代の女性から選ばれるまちづくりを実現するため、女性の自己実現や所得向上など多様な働き方を支援する「女性の職業生活における活躍推進事業」を新たに実施すること ○子供への投資・子育て支援の拡充として、「ワクワク体験事業」、「赤ちゃんの駅」設置事業、「療育支援児童保育事業補助金」、「結婚活動支援補助金」、「子どもの居場所づくり推進事業」などを実施すること ○人を惹きつける魅力あるまちづくりとして、「薩摩スチューデント奨学プログラム」、「英語のまち」いちき串木野推進事業」での英語かるた作成事業やマンツーマン英会話事業、「串木野駅周辺再開発事業」、「まぐろ漁業実態等調査事業」、「洋上風力発電調査研究事業」などを実施すること
中屋市長	概要の説明でしたが、何か確認したいことなどありませんか。
國料委員	移住定住促進対策に「Web プロモーション推進事業」とありますけれども、こちらでぜひ「地元で働く場はきちんとあるんだよ」と良い企業があることを P R していただきたいと思います。それに対する事業者の協力も得られると思います。 また、包括連携協定を結ばれているということで、それらの活用ももちろんですが、先日、私が県の方で、ある事業を担うことになりました。これまで 1 日に 2,000 人くらいの来場者だったものが、SNS

	を使ったことで7,000人～8,000人、天文館に人が集まるということが起きました。 普段、私たちもSNSは利用しておりますが、若い方を中心にものすごい発信力があるなと感じています。もちろんUUUMさんは全国的に有名だということもありますけど、鹿児島県内で子育てをされる世帯にターゲットを持っていてフォロワー数が何万人もいるインスタグラマーがいらっしゃるので、私たちはこの事業でその方々を活用しました。 来場者にアンケートをとって分かったことは、これを見たからこのイベントに来たんだということだったので、情報発信の結果だったのかなと思っております。 なので、そのような活用の仕方もあるのかなと思いますので、検討いただけたら、本市の取組というものが他市と違って独自性のあるものが非常に多いと思っておりますので、差別化という意味で、いちき串木野にはこういうものがあるPRに力を入れていただきたいと思いますと思っております。
中屋市長	私たち昭和の人間はSNSに不慣れなんですけど、インスタグラムを通じて情報発信をして、人を集めるんですね。
山崎課長	本市のウェブプロモーションの取組は他市に比べて遅く、やっと今年度からできるようになっておりまして、内容としては子育てに関する情報が多いんですが、委員が言われた働く場所というのもあると思いますので、そのような情報も発信していければと思います。
國料委員	「住みたいまち」「住み続けたいまち」のアンケート調査がありまして、本市は残念ながら「住みたいまち」のトップテンには入っておりませんが、「住み続けたいまち」では本市は7位でした。 やはり住んでいる方の満足度がすごく高い、ということだと思っております。 それがなぜ人口増加につながっていないかと言えば、私はPRだと思っていますので、そのような事に改めて力を入れていただければ、いちき串木野市には素晴らしいものがあると思っておりますので、ぜひPRしていただければと思います。
橋口委員	國料委員の意見に全く同意しております。 いちき串木野市の居住者として、市のホームページがもっと使いやすくなってほしいなと思っておりますし、「医療相談オンラインサービス導入事業」とありますが、例えば保健センターと連絡するにしても、美

	容室の予約がウェブでできるように、そのような仕組みが医療関係や子育てのサービスに使えるようになったらとてもいいと思います。 また、InstagramやYouTubeなどで市の情報を発信するようになれば、あるいは、イベントの申込みなどをネットでできるようにして、都市部と地方との情報格差が無くなったら、田舎に住んでいても色々なサービスを受けられることで、もっと住みやすい、住み続けたいまちになるのではないかなと思います。 ネットでの申込みについては、「デジタルの申込み方法が分からない」と言われるような高齢者向けに、例えば図書館にあるパソコンを利用していただいて、使い方が分からない方には誰かが教える、というのも1つの方法ではと思います。 ぜひ、デジタル化を進めていただきたいなと思います。
山崎課長	来年度から、公共システムの予約システムを導入する予定でありまして、少しずつ広げていこうとしているところです。
福山委員	「医療相談オンラインサービス」のことで質問です。 これは24時間体制で対応可能なサービスなんですか。 小さなお子さんがいらっしゃる方とか、心配なことがたくさんあられると思うので、24時間体制だったらいいなと思います。
山崎課長	24時間、いつでも相談できる体制となっておりますので、子育て世代の不安軽減にはつながるのかなと考えております。
若松委員	教育大綱の教育理念に「人づくり」が大きく掲げられていますが、人づくりのための予算措置については、どのようなものを想定されているのかなと思うところで、ワクワク体験事業とか、これもその1つかなと思うんですけど、大人の考え方の教育というか、お母さん方の考え方を変えていただくような取組はできないのかなと思っています。 不登校の問題についても、不登校の原因は子供にあるのではなくて保護者にある場合があって、保護者と面談する機会を設けて話を聞くことで、保護者の考え方を変えられれば不登校の解消につながるのではないかなと思います。 あと、困難さを抱えたお子さんについて、進学判定委員会で、特別支援学校がいいとか特別支援学級がいいとかの判断の際に、保護者の方が納得されず、学校の先生方も苦勞をされているという現状が多くなっているなかで、そのような時に、地域でできることにはどんなことがあるのかを皆さんに考えてもらうような事業はできないかな

中屋市長	と思います。 私達が小学校の保護者にアンケートを取った時に、家庭教育に対してどこが力を入れるべきかとの問いに対して、一番多かったのが「行政に期待している」で、次が「保護者自身が勉強すべきだ」という結果でした。 保護者自身が頑張りたいという方がいるなかで行政としてどういう事ができるのかなと思いつつ、子育て対策についてはたくさん事業があり、昔と比べたら充実してうらやましいなと思いながら、「人づくり」に対してはどんな事ができるのかなと、思うことでした。 教育の中で大雑把に分けると学校現場での「学校教育」、また「社会教育」あるいは「家庭教育」とありますが、学校で起こっている問題というのは学校に問題があるというより、むしろ家庭に、社会に、地域に問題があると、だからここはしっかり連動しないといけないということで、正にそうだなと思うところです。 実は今日、全国組織の倫理研究所の方が挨拶に来られました。 来られた方が家庭教育に詳しいというお話だったので、教育委員会の社会教育課でもぜひ話をしてくださいとお願いしたところで、人権や多様性、道徳、倫理管理など、正にそうだと考えております。 ですから、一番難しいけれども、ここをやらないと教育というのは空回りするのではと思いますので、また、来週は定例教育委員会も開催されるということで、その中でも議論していただければと思います。
中屋市長	他にはありませんか。
橋口委員	国際理解教育の充実の中で、令和7年度から「英語かるた」の作成作業が始まるということでうれしく思っているのですが、いちき串木野市は国際交流という点において、非常にポテンシャルが高い、つまり他の市町村とは差別化ができると思っています。 何故ならば、国際交流協会があって、その中でも各種団体がありまして、一番歴史が古くて事業が充実しているいちき串木野市サリナス市姉妹都市協会では、アメリカのサリナス市といちき串木野市の中・高校生を隔年ごとに交流しはじめて40年以上が経過しています。 また私は個人的に、ロサンゼルス的小学生とこちらの小学生にオンラインを使って自由に英語を使って会話をさせる活動をしています。 国際理解教育の活動の中で、「これは教育委員会の事業」「これは国際交流協会の事業」と、これまではそれぞれで動いて共同されないもので、参加者は少ない、内容はマンネリ化していく、そんなものを歯がゆい思いで見てきました。ですから壁を外して「こんなプロジェクト

	がある。それにはどんな人材が必要か。」とか、共同で出来ないかなと思います。 これから先、他の市町村からうらやましがられるような、本市にしかできないような国際交流活動ができるよう、共同していただきたいと思います。
山崎課長	委員がおっしゃられるように、「教育委員会所管」というような壁があったのかなと思いますが、取組としてどんなやり方が効果的かと、今後は検証していく必要があると思います。どんな枠組みの中で行うと裾野が広がるのか、効果的なのか、本市には他市にない素材や歴史・伝統もある、そのようなことを一旦立ち止まって、連携しながら検討していく必要があるのかなと思います。
中屋市長	私も先日、サリナスやロサンゼルスへ行かせていただきましたが、長い長い歴史の中で、これだけ中身が濃い実績があって、先人達がいて、委員が言われたように本市の強みだなと感じました。 この歴史を大事にしながら、いちき串木野で子供時代・学生時代を過ごしたんだ、これが大きな肥しになったんだという、そんな子供達になってほしいですね。
中屋市長	次に、5の「その他」に入りますが、何かございませんか。
國料委員	先ほど協議しました教育大綱ですが、内容については、何ら異論はございません。 そのうえで、私の思いをお話しさせていただきたいと思います。 基本理念の「支え」という部分ですが、私も子育て世代の一員として学校を見させていただいておりますが、現状をお伝えすれば、発達障害といいますか、そのような子供達を「あなたがサポートしてね」と一人に集中して、まかせてしまっている部分があるんですね。みんなで支えていない。「あなたはできるよね。あなたは優しいから一緒に行動してあげてね。」というのが毎度のことだという状況があるようです。全員でしっかりと支えていくという環境づくりが必要なのかなと思っています。「多様な人々が共に生きる社会の実現」というところが気になるところです。 また、自分の人生は自分で選択して、自分で切り開いていくという部分、私が思うのは、色々な企業説明会等で若い方々と話をしても、親から「こういう方向に進んでほしい」と言われて自分の就職先を決める、あるいは中学校から高校に進学する際の進路も、「親がここに行け」と言われてとか「仲がいい友達が行くから」などの理由で高

中屋市長	校を選択される方々がいらっしゃいます。 義務教育の段階で、子供達に自分達の頭で自分達の方向性を決めていく、そして覚悟を持ってやっていくんだという思いをしっかりと伝えていく、キャリア教育というものをもっともっとやるべきかなと、私は思っています。 もう一点です。 伝統・文化の継承とよく言われますけど、私は作っていくことも考えたいなと思っています。 この令和の時代に生まれた歴史・伝統なんだよというのを、50年後、100年後に後世に伝えていけるような、そういった取組を生み出すことを一緒に考えていく必要があるかなと思っています。 私も同感であります。 ちょっと話が合わないかもしれませんが、先日、ライオンズクラブ主催の「青少年みんなの想いプレゼン大会」がありました。 おっしゃったように、子供達が自分で問題を見つけて、自分で解決策を考える、そして自分の言葉で発表する。今年で3回目の開催のようですが、毎年レベルアップしているなと感じました。 我々の時代はパソコンなど無かったので、どれだけ覚えてどれだけ知識を貯めこむかを重視された時代で、自分で独自に考えることはそれほど重視されていなかった、でも今はAIがありネットを使えば情報は全部出てくる、だから自分で課題を見つけて自分で考え、自分の考えを自分の言葉でしゃべる、このライオンズクラブのプレゼン大会はすごくいいなと思いました。 大会には予選を勝ち上がった17名の小中学生が出場しましたが、予選には60～70名が手を挙げたということですので、このような形でやっていけば、いちき串木野市の子供達の考え方、教育のあり方もずいぶん変わってくるのかなと、楽しみだなと思うことでした。
中屋市長	他にありませんか。
橋口委員	基本理念を見て、これをもし学校教育で実現するとしたら、鹿児島県独特の土曜授業の中で、いちき串木野市でカリキュラムを作れないかなと思うんです。なぜ鹿児島県が第2土曜日に授業をするのか、これにはいろいろ理由はあったと思います。先日、南日本新聞の「若い目」の欄に、小学生の「どうして必要なの？」っていう投稿が載っていましたけれども、土曜授業であることを子供達が自分たちで決める、そんなエッセンスを入れた授業をいちき串木野市が最初にカリキュラムに入れることができれば、素晴らしい授業になるかなと思いました。

相良教育長	土曜授業については 10 年前から始まったものですが、体験学習、キャリア教育、いろいろなことを地域の活性化も含めながら、学校と共に子供達に郷土の活動をさせるもので、土曜日は地域の協力を得やすい、地域の方々も集まりやすい、そのようなことで始まったわけですが、これが 10 年間でマンネリ化してきたところもあります。一所懸命取り組んでいるところもある。特に離島などは熱心なんですよ。地域の方々が地域活性化のために子供達と一緒に何でもやって土曜授業が村のお祭りになるくらいところもあるし、全然そのような行事が無いところは学校だけで完結するので人を呼ぶ力がない、活性化につながらないという状況もあります。 そこで土曜授業については、本市の場合も検討しなければならないと考えているところであります。 ただ、これまで培ってきた事業ですので、子供達のためにどのように土曜授業を活用していくかを考える必要がありますが、10 年経った区切りで新たな方向性など色々考えながら、「まだ続けてほしい」という考えと、「もうやめてもいいんじゃないか」という色んな考えがありますので、工夫していかなければならないのかなと考えています。
中屋市長	やるのが目的ではなくてその中身の問題でしょうから、そこをしっかりと皆さんで、定例教育委員会でも議論していただければと思います。
中屋市長	全体を通して、他に何かありませんか。
教育委員	(「なし」という声あり。)
中屋市長	それでは、協議等についてはこれまでといたします。
事務局	皆さんの御協力により、たくさんの参考になるご意見をいただくことができました。
	以上で、令和 6 年度第 1 回総合教育会議を閉会いたします。 本日はありがとうございました。
	(午後 4 時 40 分)